

## ■「2022ビールパーティー」中止のお知らせ

7月2日開催予定の(一社)北海道建築士会 北見支部主催ビールパーティーを新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止します。

## ■(一社)北海道建築士会事業委員会からのお知らせ

令和5年「特別活動費」の募集

### ◆特別活動費◆

令和3年から始まった、新事業です。建築をとりまく社会環境が目まぐるしく変化している今日、常に新しいテーマを持ち積極的に検討し、実行していくことが望まれます。そこで、全道の統一事業のほかに支部等の事業に対して、人材・資金・情報などの支援を行うための「特別活動費」を充てることにしました。

### ◆助成の対象事業◆

支部等が建築士会のPRや会員等の資質の向上のための新たな事業又は、地域住民との協働により活力あるまちづくりの一助を担う新たな事業等が対象となります。

※詳細については北見支部事務局まで連絡ください。

つきましては、新たな事業(案)がある方は令和4年6月30日までに事務局へ連絡して下さい。

例) パソコン・タブレット等を利用し、ブラウザ上で稼働するパズルを使った住教育ツールを開発し公立小学校を対象とした出前講座の実施など

## ■「令和4年度 北海道福祉のまちづくり表彰募集」のご案内

北海道では、「北海道福祉のまちづくり条例」に基づき、福祉のまちづくりの普及啓発を目的として、福祉的配慮に優れた公共的施設、障がい者・高齢者等を支援する活動の優良事例や福祉用具開発者等を表彰しています。

つきましては、募集要領により表彰候補を募集していますので、この表彰の趣旨をご理解の上、ぜひご応募下さい。

北海道ホームページ(募集要項・応募用紙)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/feg/machihyoushou/boshuu.htm>

## ■住所、氏名、資格、勤務先等に変更があった場合は遅滞なく変更届の提出をお願いします。

(一社)北海道建築士会ホームページより届出書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、北見支部事務局(株)清和設計事務所までご持参ください。

【届出書】[https://h-ab.com/download/association/app\\_statement02.pdf](https://h-ab.com/download/association/app_statement02.pdf)

## ■支部ニュースでお知らせする会員向け情報を随時募集しています。

※裏面もご覧ください※

## 《会員紹介コーナー》

親 会

### 『 スキーについて 』

執筆者 井上 和年 (㈱井上工務所 代表)



スキーは小学生のころから滑っていましたが、中学、高校とあまり滑らず、札幌の大学に進学しスキー場が近くにあったので友達に誘われ久しぶりに滑ってみると、多少滑ることができました。それで大学時代は遊びで滑っていました。札幌の建設会社に就職し、その先輩がたまたまスキーを趣味としていたので、一緒に遊んでもらいました。20代中盤に留辺蘂へ戻り、会社を継ぐことになりました。そこで冬の夜は暇だったので、地元のスキー場で滑っていたのですが、スキーの準指導員を取得するため、練習している人たちと友達になり、お前も受けたらどうだという話になり、それまでは自由気ままに我流で滑っていましたが、準指導員を受けるためには級別テストの1級の資格が必要とのことで、我流で滑っていたのですが、何とか1級に合格し、それから5年ほどアシスタントみたいなことをして、そろそろ受験してよいと先輩指導員の方に許しを得て、何とか一回で準指導員に合格しました。そのあと正指導員にも合格し、準指導員受験者の担当となり地元で教えていたのですが、北海道スキー連盟の技術員に推薦していただき北海道の技術員としてお手伝いをしていました。さらに全日本スキー連盟の技術員にも推薦していただき全日本の技術員として、各スキー連盟の先生方の講習もしていました。今は先生方に講習するとか、準指導員受験のための講習をするとかの技術員を引退し、地元で一般スキーヤーや子供たちにスキーの楽しみ方を教えています。プライベートではテクニカル保持者やクラウン保持者、そして自分が教えた先生方に遊んでもらっています。スキーは生涯スポーツなので体が動かなくなるまで楽しみたいと思います。

女性部会

### 『 最近思ったこと 』

執筆者 伊藤 朋美 (㈱山本工務店 勤務)



私の勤める会社の主な仕事は住宅の建設です。お客様のご要望を反映しながら住宅を考えて建てていくとても難しい仕事だと思います。何年も携わっていますが、お客様によって発想や考え方が違い、毎回毎回いろいろな発見ができ、とても勉強になります。私の能力不足で先輩方に迷惑を掛けることもありますが、その度厳しくも温かい指導を受け、先輩方には感謝しかありません。その様な過程を経て完成し、引き渡した時のお客様の笑顔を見ると毎回、よかった。と嬉しくなります。先日、ウクライナの壊された建物を報道で見てショックを受けました。最近のテレビ映像はとてもきれいで、建物の中の隅々まで鮮明に映っていました。壊れた建物内のキッチンに転がった鍋や干してある洗濯物を見た時に、“ああ、この建物に住んでいたという事はその中での暮らしも当然あったのだ。と思うと同時に、デザイン性等の見た目も大事だけど、安全で安心して暮らせる建物をつくるという事も重要なのだ。”ということを改めて実感しました。その事を忘れずに、これからもお客様と納得のいく住宅づくりをしていきたいと思っています。